

なんかい、106号

2017年 5月1日発行

南海寮 広報委員会
熊本県天草市本町下河内1685番地の1
TEL 0969-23-3850
FAX 0969-22-4977
Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp
URL http://www.nankairyu.or.jp/

天草空港周辺県道添い一面に咲いたキンセンカ (天草空港周辺景観整備業務=天草市委託事業)



南海寮 家族・職員合同研修会

いつまでもおいしい食事

「お口の健康は体の健康」

4月23日、平成29年度の家族会総会が開催されました。今年には本体施設が建替え工事のため、天草市民センター大会議室をお借りして開催し、48家族、69名と多くの家族の参加があり、総会終了後にはご家族と職員の「合同研修会」を企画させて頂きました。

今回の講演は、当施設で訪問歯科診療を実施して頂いている「オーラルケアサポートさくら」(以下OCS)の院長・富久清孝先生をお招きして「口腔ケア・食支援」について講演して頂きました。

当施設では平成20年にOCSより訪問歯科診療のお話しを頂いて、特に外来の歯科受診が難しい重度の利用者の方に対しての診療が始まりました。治療と並行して職員に対する口腔ケア指導や歯磨き介助の指導をして頂いた事で日常的な口腔ケアの意識も向上してきました。訪問歯科診療がスタートした当初は歯科治療の意味が分からず「何をされるのか？」と不安になり、強く拒否されていた利用者も、現在ではスムーズに

診療を受けられ、口腔ケアの際には、歯磨き後に歯間ブラシを使用してもじっと静かに介助を受けておられます。結果、口腔内の環境は劇的に変化し、発熱の減少など内科的な面はもちろん、嚥下機能の維持や向上にも効果が表れています。

講演会ではご家族にも分かりやすく、写真や動画などで口腔ケアの重要性を発信して頂き、ご家族から「分かりやすく、勉強になった」「子ども、兄弟姉妹の嚥下・口腔機能について関心が高まった」等の感想が聞かれました。

「食べる」ことをいつまでも楽しめる。いつまでもおいしく食べられるということは、人生の豊かさにも直結します。利用者の皆さんの人生がより豊かなものになるように、口腔ケアに一層力を入れ、健康の保持増進に努めていきたいと思えます。



OCS院長 富久清孝 氏

相談者自身が問題解決に取組む 意欲を高めていく支援

CSW 山本 富喜子

今回の研修会において、生計困難者レスキュー事業におけるコミュニケーションスキルワーカー（以下CSW）の役割や意義について考えさせられました。研修会に参加するまでは、ただ生計困難者に金銭や物資等の援助を行う事業だと思っていました。実際には、金銭的な給付は原則なく、担当のCSWが買い物同行し食材を購入したり、ライフライン（光熱費等）の支払いを代行したりする等して、生活保護や年金を受給できるまでの「繋ぎ」として生計困難な方への支援を行うもので、当初イメージしていたものとは少し違っていました。例えば離職により現預金が枯渇し、ゴミ屋敷化している方への支援、元受刑者への支援、夫のギャンブル依存と多重債務で離婚した母子家庭への支援、ホームレスの元暴力団員への就労手続きの支援等様々でした。そのような中でCSWの役割は、対

象となる方を社会から「孤立」させないことです。孤立すると何の手立てもない事に絶望し、非行や犯罪に手を染める人も少なくないからです。人は一人では何もできませんが、私たちが手を差し伸べたり、本人の生きる意思や希望を取り戻すお手伝いをしていく事が重要で、その為には本人に寄り添うにはどうしたら良いかが鍵になってくると思います。また、相談者の問題解決を行うことが目的ではなく、相談者自身が問題解決に取り組む意欲を高める支援をしていく事が重要で、地域の人々の暮らしの状況や生活を支える資源がどうなっているか、相談者の目の前で見えている問題だけでなく、その背景や構造を捉えて、関連性を見つれたり、深層には何があるのかを考える姿勢が大切であると思います。当法人でも今年度より「生計困難者レスキュー事業」の指定を受け開始しました。地域には潜在的ニーズや課題が散在しており、解決のために活用できる施策・制度、社会資源等の情報、関係機関とのネットワークづくり等、必要な知識や技術を身に付けていかなければなりません。

次世代の福祉人材育成 ～指導者としての役割～

支援員 金子 史

今回は実習指導者という事で学んできましたが、実習指導者が、介護福祉士養成教育の一環としての「介護実習」を把握するために、まずは養成教育の制度やカリキュラムについて知ること、具体的な指導方法の一つとしてのスーパービジョン、専門領域としての介護過程の展開技術について熟知していることが求められているとの事で、演習等を交えながら学んできました。実習に臨む学生さんは、様々な不安や期待をもって実習施設に学びにきます。「どんな利用者が生活しておられるのだろう」「担当する職員はどんな人なんだろう」「実習日誌をきちんと書けるだろうか」など色々な感情を持って実習に来られると思います。しかし実態として、施設によっては「ちょうど人手が少なかったから良かった」と年末の大掃除をさせたり、時には「ここで利用者さんと話してもして」と、その

まま何の指導もなく、結局一日何もせず過ぎました、などと養成学校での反省会で聞かされる事があると講師の方より話があり、やはり実習を受け入れるためには実習指導体制づくりが必要になると思います。実習受け入れ施設として大事なことで、実習マニュアルを整備し、マニュアルを充実させる事(受入れ用と指導者用や、実習指導マニュアル、トラブルへの対応等)で指導の統一化を図る事が大事であり、マニュアルが揃ってはじめて実習受け入れの態勢の準備が整ったと言えるほどマニュアルは大事であるとの事。現在施設にもマニュアルはありますが、今後は見直し等検討していく必要があると思います。また実習計画や実習目的等の作成、全職員に対する情報の共有が必要であり、これは職員育成にも共通していえる事であると感じました。福祉的ニーズが多様化・高度化していく中で、自分自身も支援者または指導者として、知識や技術を磨き、実習生に寄り添った指導ができるように取り組みたいと思いました。

「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」
(山本五十六)

スタッフ育成報告

新任職員 × 先輩職員

福祉の現場に限らず、どんな業種であっても「人」が組織をつくり、人材こそが組織にとって最も重要な資源であると言えるでしょう。

今号では、ちょうど丸1年を迎えた1組の新任職員と育成担当者にスポットをあて、「育つ」、「育てる」とはどういう事なのか、1年前を振り返ってどんな成長や反省があったのか、今後の展望も含めてモニタリングしてもらいました。



「育つ」 生活支援員 和田 卓巳

私が支援員として入職し1年が経ちます。初めは何をしたら良いのか全く分かりませんでした。育成担当の櫻井さんに「利用者さんが何をしたいのか、何を望んでいるのかを考えて利用者さんの目線に立って行動してみよう」と話がありました。まず利用者さんが何を思っているのかを考えながら様子や行動に注視して接するように心掛けました。すると皆さんとても素直な喜・怒・哀・楽の感情をそのままぶつけて来られ、初めは戸惑いがありました。先輩から「感情をそのまま受け止めて、しっかりと向き合えないと理解できない」とのアドバイスがありました。戸惑いや不安はありましたが、その分成長できたと思います。今でも毎日利用者さんに教えて頂く事ばかりですが、素直な心で受け止め自分の成長に繋げていけたらと思います。

また、日頃の支援の中でも皆さんに対する声掛け方、支援法を見習い、良い部分を真似できるようにこれからも努めていきたいです。そして私がこの期間で学んだ事は、これからの支援者としての基盤となる事だと思います。まだまだ教えて頂く事も多く利用者さんの為になっているのか不安になる時もありますが、4月から担当させて頂く利用者さんが不安にならないように自信を持って職務にあたり、周りの先輩方と連携を取りながら利用者さんが暮らしやすい環境を作っていけたらと思います。今回学んだ事を自分の力に変えて、数年先、後輩が出来た時に支援者として手本となる「人材」に成長できたらと思います。

「育てる」 生活支援員 櫻井 裕己

私も当施設に勤務させていただき6年になります。まだまだ先輩の方々に教えてもらうことが多い日々ですが、今回育成担当として私が感じた事、思った事、また試行錯誤しながら彼に伝えてきた事を書かせて頂きます。

まず第一に「利用者の立場に立ってみる事」これが福祉の仕事の原点だと思います。これによりどんなサービスが必要なのか、必要とされているのかが見えてくると思います。次に「目配り、気配り」気づきの心が大事だと思います。昨日と異なる点はないか、体調に変化はないか等、違う視点から利用者の方を見ることによって違ったサービスの提供が出来るのではないのでしょうか。また「チームワーク」これは福祉の仕事に限らず組織の中では必要不可欠なものだと思います。福祉の仕事は単独で行うには限界があります。自分もどれだけ助けられたかわかりません。チームワークの良さがより質の高いサービスの提供に繋がると思います。よく職人の方が弟子の人に対して「技は見て盗め」と言う事を耳にしますが、これも人材育成の一環ではないのでしょうか。共に行動する事で彼が何かを感じ、それが成長に繋がった時に確かな手応えを感じる場面もあります。しかし自身の業務が忙しく彼に十分に伝えられなかった部分は大いに反省し、また今後の課題にしたいと思います。「人材育成」これは非常に難しいという事を改めて感じています。今後、機会がある度に色々な事を伝え、共に成長して行けたらと考えています。

天草地区合同研修会 事例発表検討会(2月15日)

天草地区合同研修会において、「リハビリを通しての四肢機能の回復」という題目の事例発表をさせていただきました。

以前は元気に走り回っておられた30代の利用者の方が、4年前のてんかん発作が原因で全身の硬直が酷く、寝たきりの状態になってしまわれました。職員でもどのようにリハビリを行って良いのか解らず、ご両親の「また歩けるようになって欲しい」と言う願いもあり、3年前より理学療法士の指導と意見を取り入れリハビリを開始。初めは腕の曲げ伸ばしも全く出来ない状態でしたが、四肢のマッサージや座位保持・起き上がり訓練など、徐々にメニューを増やしながら、毎日のリハビリの効果により硬直も少しずつ緩和して手の曲げ伸ばしや車椅子での座位保持も可能となりました。「リハビリは心身共に楽しむもの」と言う合言葉のもとに、今後もしもご両親にもご協力を頂きながらチーム全員で力を合わせ、少しでも以前のように歩けることが出来るよう毎日取り組んで行きたいと思えます。

坂本 悠介





ニコリホットレポート

医療や福祉の現場で「ヒヤリ・ハット」という言葉があります。ヒヤリ・ハットとは、結果的に事故には至らないまでも、その一歩手前の「ヒヤリ」「ハット」するような、もしかすると事故に直結したかもしれない事案の事を指します。私たちが日常の業務の中で「ヒヤリハット報告書（インシデントレポート）」を提出し、安全管理における事故防止や情報共有の重要なツールとして活用しています。しかし、ヒヤリハットと聞くと「事故、危機、制限…」など重苦しい雰囲気になってしまいがちです。対して「ニコリホット」とは、日々の利用者さんの生活の中で、思わず「にこり」と笑顔になったり、「ホッ」と安心できるようなポジティブな出来事で、今号ではそんな心温まるエピソードを2つご紹介させていただきます。

CASE.1

車が大好きなKさん。いつも車の雑誌を持ち歩き、「これ！〇〇さんと一緒の車」「南海寮の車」等と同じ車種をみつけては雑誌を指さしながら教えて下さったり、玄関に業者の方やお客様が来寮されると「〇〇さ～ん、お客さん！」と関係のある職員を覚えておられ、教えて下さるととても頼りになるKさんの心の温まるお話です。

数年前より、少しずつ気になり始めたボディライン…。半年前から美容と健康を兼ねて、同じ悩みを抱える利用者のSさんと私は、昼休みにウォーキングを行っています。

そんなある日、いつものようにSさんと施設周辺の散歩に出掛けたところ、歩き始めて間もなく曇り始めた空から急にポツポツ雨が降り始めました。慌てて引き返しましたが、徐々に雨脚が強くなり、ずぶ濡れになりながら小走りで施設へ戻っていると、遠くから傘を差しながら左手に2本の傘を持って歩いて来る人が…。一緒に歩いていたSさんが「あっ!? Kさんだ」と気付き2人で大喜びで近付くと、「雨、降った、迎え」と言いながらドヤ顔で迎えに来て下さいました。私達が散歩に出掛けている事、急に雨が降って困っている事にいち早く気付き、すぐに迎えに来て下さったKさんの気付きと行動力に感謝し、雨には降られましたが、とてもハッピーな一日となりました。…それにしても私たちが散歩に行っている事を知りながら、誰も車で迎えに来てくれなかった職員に「喝！」ですね(笑)

(松本かおり)



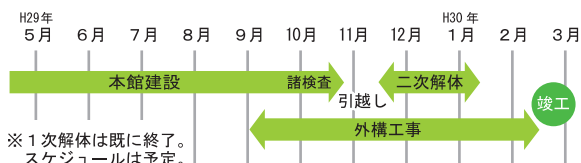
CASE.2

グループホームで生活されているEさん。普段は寡黙で「自分、不器用ですから…」という高倉健のセリフが良く似合うとてもダンディな魅力と雰囲気のある方です。

ある日の夕ご飯時、台所に立っている世話人さんの後ろ姿をジーンと見つめながら、いつものようにダイニングで料理ができるのを静かに待たれていたEさん。もう間もなく料理ができあがるといったところで、おもむろに立ちあがりダイニングから出ていかれました。「トイレかな？」と思いながら気になって様子を見に行くと、他の入居者がいらっしゃる部屋へ行き、少し離れたところからようやく聞き取れる程度の小さな声で一言「…メシ」とつぶやき、食べるジェスチャーを軽く交えながら、ご飯ができた事を知らせに行かれていました。普段は、他の利用者の方に自ら話しかけたり、積極的なコミュニケーションがあまり見られないEさんが、こちらから何か依頼をしたわけでもなく、また普段の世話人さんの台所での動きを見て、料理がもうすぐ出来上がる事を察知した自発的な行動に驚きました。嬉しくなってさっそく世話人さんにその事を伝え、世話人さんから「Eさんありがとう」と声を掛けられると、照れくさそうに、笑顔でクシャクシャになった顔を隠しながら下を向き、軽くうなずいて応えられていました。

今では、自らの役割として他の入居者にご飯を知らせに行く事を楽しみにされているEさんです。

(金子恵三)



施設本館建替え工事進捗状況

今年2月から始まった工事も早3ヵ月が経過し、その間、建物解体に伴う片付けや、一部利用者の仮設への引越しなど慌ただしい日々が続いておりますが、何事もなく順調に進んでおります。建物の一部解体工事が4月に終了し、先日いよいよ本館建設工事が始まりました。左の図のスケジュールのとおり、利用者やご家族、関係者の皆様にはもうしばらくご不便をおかけ致しますが、ご理解をよろしく願います。

通所センターだより



やっと咲いた桜の花、入学式を彩るかと思いきや、あいにくの雨続きで、なかなか花見に行けない日々でしたが、中旬にやっと行くことができました。さて、今回は改めて通所センター（生活介護・生活訓練）のご紹介をしたいと思います。

場所は南海寮にほど近い県道沿いであって、建物は横に長く通所センターと生活訓練センターが隣接しています。今年度2名の方が自立訓練を新規利用となられ、通所センター23名、生活訓練センター3名でスタートしました。他事業所との併用利用も可能なので、曜日により利用人数は17名～23名と最大6名の差があります。活動は、午前中公園歩行

や除草作業、レクリエーションなどを皆で行い、午後は個別で貼り絵、紙漉き、トレーニングバイク、手芸、パズルなど興味のある事、その方の得意な事、体調面で必要な事などを行っています。

利用者の皆さんは、明るくて、優しく、面白くて、歌が好き、ダンスも好き、作業も好きで最後まで頑張っておられる方が多く、毎日感じています。笑い声や「ありがとう」という感謝の言葉をよく耳にする、楽しくて、大切な事を気付かせてくれる場所だなあと感じています。今年1年、健康に笑顔で過ごせますよう取り組んでまいりますのでよろしくお願ひします。

大仁田 美穂

職員研修会等参加報告

- 強度行動障害支援者研修（2月7・8日） 高瀧他
- OJT推進研修（2月7・8日） 田中
- 腰痛予防講座（2月9日） 倉田
- 職員・家族合同研修会（2月14日） 入船他
- わるつ発達障がい連続講座（2月11日） 松浦徳
- スーパーバイザー研修（2月14・15日） 石原
- 第三者委員研修（2月28日） 井上
- 福祉人材採用戦略セミナー（2月28日） 中嶋他
- 法人労務研修（3月14日） 松浦光
- 介護福祉士研修（3月25日） 坂本

今後の予定

5月7日 天草地区スポーツ大会・愛藍ピック（稜南中学校）

編集後記

記事の文末に(もしくはタイトル)その記事を書いたスタッフの名前を入れさせて頂いているように、それぞれの記事は、その当事者や担当したスタッフに寄稿を依頼しています。その際、「この広報紙を手にとって読んで下さる人の事を想い、その姿を想像して、どんな事を伝え発信したいかを明確にして書いてほしい」ことを委員会からお願いしています。依頼された文字数をただ埋めていったような記事や、外部に発信する文章としての水準に達していない記事は、何度も添削をお願いしながら、本人が書いた文章を尊重しながら最終的な訂正を加え発行しております。広報紙作成のプロセスとしては当たり前のことですが、ご利用者をはじめ、ご家族の皆様、関係機関の方々に楽しんで頂けるような紙面づくりを目指しお届けできればと思っております。

o-naka



4月12日、今年も味千ラーメン熊本本店、天草茶北店様（重光産業株式会社）の善意・ご協力で、利用者の方々へ無償での味千ラーメン提供を頂きました。御社の40周年事業として始まったこのボランティアも9回目を数え、以来毎年欠かさず訪問をして頂いております。熊本の味・味千ラーメンを少しでも多くの方々に届けたい、お世話になった地域に恩返しをしたい、との想いに毎年感銘を受けながら、深く感謝しております。ありがとうございました。



職員異動・退職



- 【異動】
南海寮
→生活訓練センター
京塚 香菜
- 【異動】
通所センター
→南海寮
山本 貴寛
- 【退職】
生活支援員
江崎 正徳
- 【退職】
調理員
松浦 和希

南海寮広報委員会

ご高覧頂き、ご意見・ご感想などありましたら keiyukai@cup.ocn.ne.jp までお寄せ下さい。
機関紙「なんかい」はホームページアドレス <http://www.nankairyuu.or.jp/> からご覧になれます。